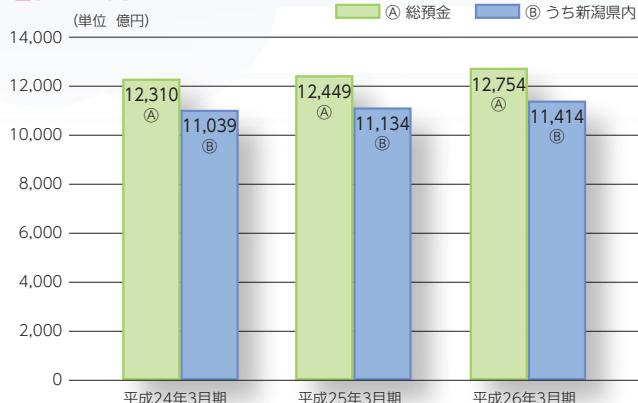


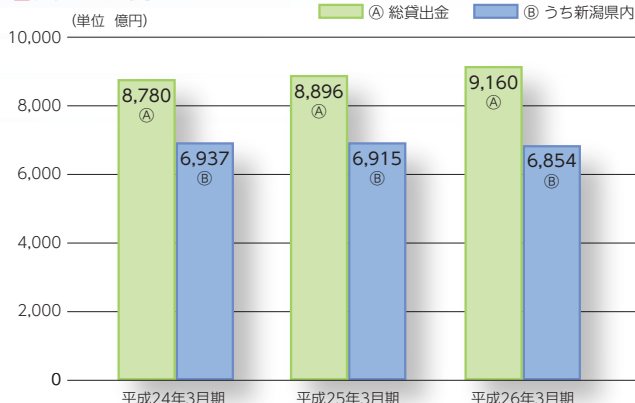
# 平成26年3月期決算の概要

## 預金残高



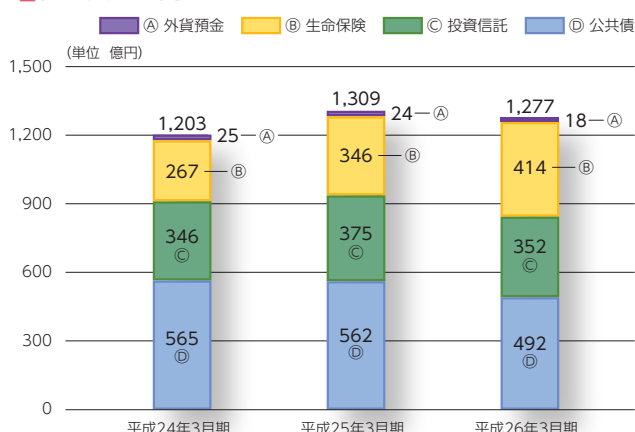
預金残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年同期比305億円増加の1兆2,754億円となりました。  
新潟県内預金残高は1兆1,414億円、県内預金比率は89%です。

## 貸出金残高



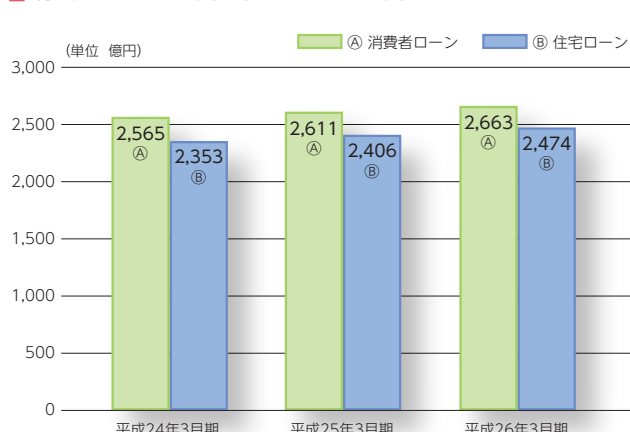
貸出金残高は、事業者向け貸出を中心に個人向け貸出、地公体向け貸出のいずれも増加し、前年同期比264億円増加の9,160億円となりました。  
新潟県内貸出金残高は6,854億円、県内貸出金比率は75%です。

## 預り資産残高



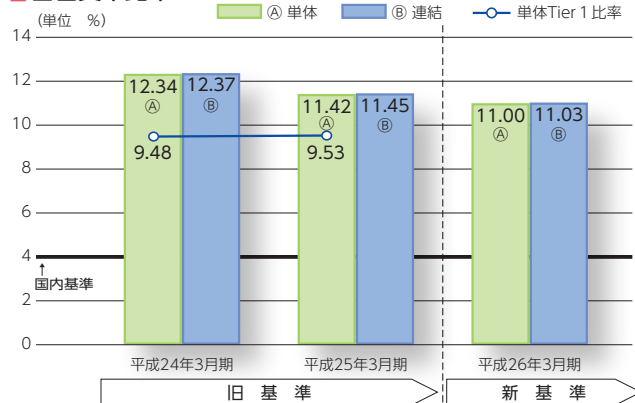
預り資産残高は、生命保険が増加した一方、投資信託および公共債が減少したことなどから前年同期比32億円減少し、1,277億円となりました。

## 消費者ローン残高・住宅ローン残高



消費者ローン残高は、住宅ローンが増加したことから前年同期比52億円増加し、2,663億円となりました。

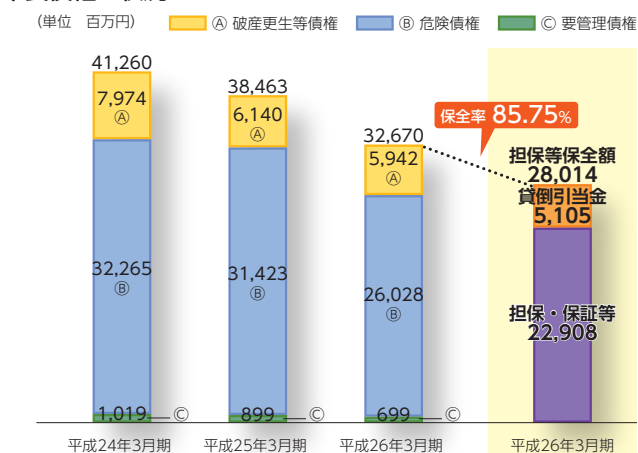
## 自己資本比率



自己資本比率規制に関する告示が改正され、平成26年3月末より新基準にて算出しております。

新基準における自己資本比率は、単体が11.00%、連結が11.03%といずれも規制値の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。

## 不良債権の状況



不良債権比率 4.66% → 4.29% → 3.54%

金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比58億円減少の326億円で、総与信額に占める割合は3.54%となりました。  
開示債権額のうち85.75%を担保等でカバーしており、保全状況は十分な水準にあります。

### 自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

## ■ 損益の状況

(単位 百万円)

	平成25年3月期	平成26年3月期	増減
業務粗利益	18,558	17,668	▲ 890
(資金利益)	(17,952)	(17,352)	(▲ 600)
(役員取引等利益)	(464)	(490)	(26)
(国債等債券関係損益)	(103)	(▲ 236)	(▲ 339)
経費	14,059	14,288	229
一般貸倒引当金繰入額	▲ 743	153	896
業務純益	5,242	3,225	▲ 2,017
(コア業務純益)	(4,395)	(3,616)	(▲ 779)
不良債権処理額	2,584	1,202	▲ 1,382
株式等関係損益	▲ 21	190	211
経常利益	2,622	2,992	370
当期純利益	1,585	1,349	▲ 236

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

### <前年同期との比較>

#### ■コア業務純益

役員取引等利益は増加しましたが、資金利益が減少したほか、新基幹系システム移行にかかる費用により経費が増加し、7億79百万円の減益となりました。

#### ■経常利益

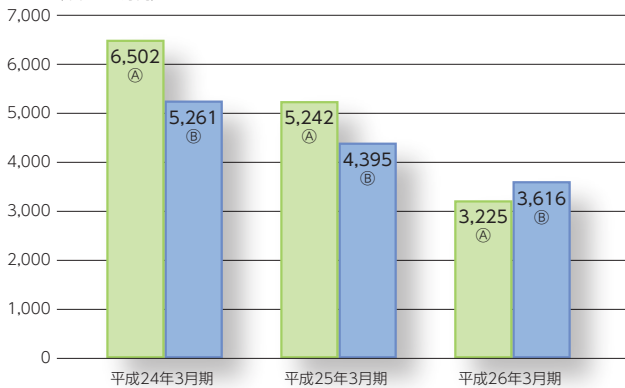
不良債権処理額の減少に加えて、株式等関係損益が改善したことなどにより、3億70百万円の増益となりました。

#### ■当期純利益

法人税等調整額を含めた税金費用の増加などにより、2億36百万円の減益となりました。

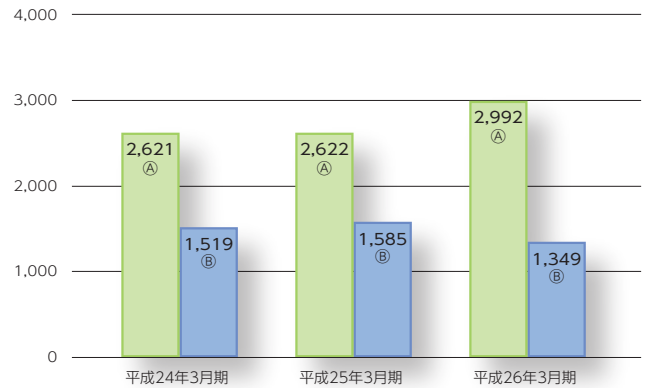
## ■ 業務純益・コア業務純益

(単位 百万円)



## ■ 経常利益・当期純利益

(単位 百万円)



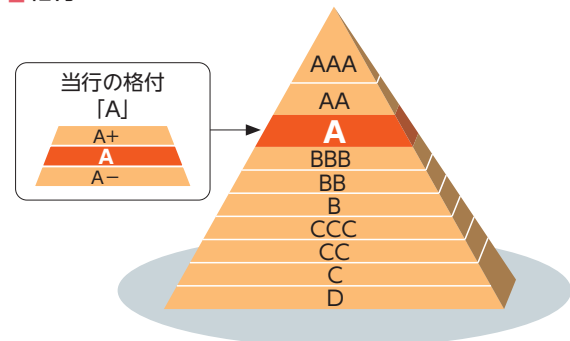
## ■ 有価証券の評価損益

(単位 百万円)

	平成25年3月期	平成26年3月期	増減
満期保有目的	▲ 240	▲ 198	42
その他有価証券	14,208	14,003	▲ 205
株式	2,531	3,543	1,012
債券	6,941	6,074	▲ 867
その他	4,735	4,385	▲ 350
合計	13,967	13,805	▲ 162

有価証券全体の評価損益は138億5百万円となり、前年同期比1億62百万円減少しました。

## ■ 格付



株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しています。

○格付：「A」（シングルAフラット）

○格付の種類：長期発行体格付

※「A」評価とは債務履行の確実性が高く、JCRの格付20ランク中上位6番目にあたります。

※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。